

播磨臨海地域道路 位置図



# 要望書

「はりまの成長なくして日本の成長なし」

播磨臨海地域道路の早期実現を！

## 『はりまフォーラム』を開催！

平成26年10月17日に兵庫県姫路市において「はりまフォーラム」を開催。地元選出国會議員、兵庫県、関係市町長、地域経済界代表者など約250名が参加し、「7兆円規模の国の公共事業関係費の確保」、「播磨臨海地域道路網の早期実現」の要望を決議しました。



### 特集記事を新聞掲載

- ・播磨から始まる日本の新たな「創造と成長」
- ・日本を支えるものづくり
- ・「播磨」は日本の宝



読売新聞 平成26年11月16日

## 要望会を開催

平成27年1月22日、23日に太田昭宏国土交通大臣、谷垣禎一自由民主党幹事長等を訪問し、決議文を手渡しました。



日交通量10万台！  
渋滞が慢性化する加古川バイパス



播磨臨海地域の高度ものづくり拠点



姫路と小豆島を結ぶ定期航路  
国際拠点港湾 姫路港



平成27年3月 グランドオープン  
世界文化遺産・国宝 姫路城

## 兵庫県

播磨臨海地域道路網協議会  
播磨臨海地域道路網建設促進協議会  
播磨臨海地域道路網促進期成議員連盟

## 播磨臨海地域道路の早期実現を！

平成27年9月10日

播磨臨海地域は、日本を代表する企業の製造拠点が集積し、多様な分野で最先端かつトップシェアを誇る製品を供給している。平成25年の製造品等出荷額は5兆5千億円を超え、さらに、ここ6年間の企業の設備投資は約1兆7千億円もあり、他の大都市をはるかに凌ぐ規模である。

東西交通の要である国道2号バイパスは、高度経済成長期に生産量増大に伴う輸送能力増強のため、昭和35年より加古川、姫路、太子竜野バイパスが順次整備、供用開始された。現在では事業着手当時と比較して、地域の製造品出荷額が2.2倍、人口が1.8倍に増加するなど、道路整備が絶大な「経済ストック効果」を発揮してきた。

一方では、地域の交通量は9倍に増加し、中でも、国道2号バイパスの交通量は約10万台から12万台で交通容量の約2倍となっている。このため、慢性的な渋滞を引き起こし、物流機能が低下している。

播磨臨海地域道路は、こうした現状を抜本的に解決する社会基盤であり、その実現はさらなる企業立地や設備投資を促し、安定した雇用の創出、稼ぐ力の強化など、将来にわたり当地域の自立・持続的発展に寄与するものである。

「はりまの成長なくして日本の成長なし」、日本の新たな「創造と成長」は、ここ播磨から始まるといっても過言ではなく、播磨の地域創生こそが日本の経済成長を力強く牽引するものと確信している。そのためにも本道路の早期実現が不可欠であり、次の事項について強く要望する。

- 一 **播磨臨海地域道路は、国道2号バイパスの渋滞を解消し物流機能を効率化するとともに、災害時等のリダンダンシーを確保するなど播磨の地域創生に不可欠であるため、優先区間を速やかに決定し、本年度中に計画段階評価に着手すること**
- 一 **今後も、計画的な社会資本の整備・保全、防災・減災機能の強化を進め、経済ストック効果をさらに高めることができるよう、必要な公共事業費予算を確保すること**

兵庫県知事

井戸敏三

播磨臨海地域道路網協議会

会長 姫路市長

石見利勝

副会長 加古川市長

岡田康裕

監事 高砂市長

登幸人

監事 太子町長

北川嘉明

理事 明石市長

泉房穂

理事 稲美町長

古谷博

理事 播磨町長

清水ひろ子

播磨臨海地域道路網建設促進協議会

会長 姫路商工会議所 会頭

三宅知行

副会長 明石商工会議所 会頭

平岡勝功

委員 加古川商工会議所 会頭

長谷川吉弘

委員 高砂商工会議所 会頭

渡辺健一

委員 稲美町商工会 会長

廣田政文

委員 播磨町商工会 会長

森田孝

委員 太子町商工会 会長

高井國昭

播磨臨海地域道路網促進期成議員連盟

会長 兵庫県議会議員

釜谷研造

副会長 山本敏信 北条やすつぐ 竹内英明

事務局長 松本隆弘

理事 水田裕一郎 掘井健智

会員 原吉三 石井秀武 上野英一 藤本百男

岸本かずなお 北浜みどり 伊藤勝正

迎山志保 谷口俊介 山口晋平 天野文夫

吉岡たけし 樽谷彰人 岡つよし

戸井田ゆうすけ 五島壮一郎 住吉寛紀